

五

軍鳩研究報告

附錄第四篇

熱帶寒帶地方ニ於ケル軍鳩通信

熱寒地方ト鳩通信目次

緒言

第一章 熱帶地方ト鳩通信

第一節 緒論

第二節 採擇スル鳩種族

第三節 鳩舎構造上ノ注意

第四節 飼料

第五節 筆箱馴致

第六節 産卵

第七節 孵化

第八節 育雛

第九節 飲水

第十節 水浴

第十一節 ミニケ病

第十二節 飛翔訓練

第十三節 放鳩訓練

第十四節 販賣能力

(附)南洋部隊鳩舎放鳩成績

第二章 極寒地方ト鳩通信

第一節 鳩舎防寒装置

第二節 飼料

第三節 飲水

第四節 飼育一般

第五節 育雛

第六節 疾病率

第七節 耐寒限度

第八節 飛翔訓練

第九節 放鳩訓練

第十節 販賣能力

(附)軍艦春日艦上鳩舎極寒地方放鳩成績

寒地方放鳩成績

熱寒地方ト雄通信

緒

熱帯地方ニ於テ雄通信ノ研究資料ハ南洋防備隊塲舎(大正十年四月設置大正十一年九月島嶼ニ引渡大正十三年廢止)軍艦若宮(南洋巡航(大正十三年三月施行熱帯地方行動期間約十五日間)小笠原特設塲舎(大正十三年八月設置十月本隊ニ撤収))

寒帯地方ニ於ケルモハ軍艦若宮ノ北海巡航(大正十一年月施行松寒地方ノ行動期間約十五日)軍艦春日ノ北海在白(大正十三年一月施行極寒地方ノ在白期間約一月)ノ實績ヲ得タリ熱帯地方ニ於ケル使用ハ比較的長期間行ヒテ以テ相當ノ資料ヲ有スルモ寒帯地方ノハ資料不足ニテ是レカ断定ハ將來ノ研究ヲ待タルヘカラサルモノサントモス

本編ハ熱帯ノハハ水邊辺ルニ即寒帯ノハハ軍艦若宮春日及大湊防備隊塲舎從事員ノ報告ヲ骨子トス

第一章 熱帯地方ト雄通信

第一節 緒論

由來軍塲飼育訓練ノ目的ハ塲ノ般業性能ヲ利用シ軍用通信ヲ行ハントスルニアルハ敢テ弊言ヲ要セサル所ナリ而テ雄ノ

暖水性ハ大体ニ於テ地球上位置如何ヲ問ハズ直接變化アルト
 勘ト雖以種鳥類ノ生育生存ハ温帯地域最適ニテ寒帯
 寒帯共ニ不適ナリ故ニ曾テ温帯地域ニ在リテ優良ナリシ種モ
 一度ニテ寒帯若クハ熱帯ニ移スルハ漸次生育不良トナリ從テ
 飛翔力ニ於テ多少ノ減殺ヲ見延イテ暖水性能ヲ低下スルノ
 傾向アリ

第二節

採擇ス可キ鳩、種類

熱帯地方ニ用ラキ鳩ハ現ニ我海陸軍ニ於テ飼育訓練シテ
 之優良ナル白佛種軍鳩ヲ以テスルヲ可トス
 トラツク守衛隊ニ於ケル土鳩使用ノ實際ハ失敗ニ般セリ

第三節

鳩舎構造上ノ注意

熱帯地ニ在リテ特ニ注意ス可キ諸件左ノ如シ
 一、金内ヲシテ可及的ニ冷涼ナラシムルコト

室外樹蔭等ト合標ナラシムルヲ以テ標準トス可シ

二、熱帯ノ常トシテ一般ニ濕氣多キヲ以テ換氣法ニ對シテハ甚
 ノ注意ヲ要シ舍内乾燥ヲ完全ナラシムル様精造上特ニ留意
 スルコト肝要ナリ

三、蚊蚋蟻、宇宮等熱地特存ノ諸害虫ハ侵入ヲ防止スルヲ要ス

蚊害ハミナシ病ノ主誘因ナリ他ノ諸害ハ鳩ニ恐怖心ヲ抱カシメ鳩舎ヲ嫌忌スルノ因トナル

四前項ノ理由ヨリ特ニ必要トスル具體的條件左ノ如シ

(一) 鳩舎ハ同一收容鳩數ニ對シ溫帶地方ニ於ケルモヨリモ一層大型ナルヲ要ス約一倍半ノ容積アルハ可ナリ

(二) 特ニ高燥ナルヲ要ス

(三) 鳩舎ハ南北ノ線上ニ設置シ入口ヲ南向セシムルヲ可トス

(四) 家根ノ底ハ可及的大ナルヲ可トス

(五) 鳩舎平面積ノ約三倍大ノ日覆家根ヲ鳩舎ノ直上ニテ、距離ヲ隔テ設置シ或ハ天井ヲ二重ニス等ノ防熱的設備ヲ施スヲ要ス

(六) 到着口ハ溫帶地方ニ於ケルモノニ倍以上ノ大型ナルヲ要ス

(七) 鳩舎四周ニ充分ナル換氣設備ヲ要ス但シ簡單容易ニ装

設シ得ル防水並防蚊用ノ扉ヲ設備スルヲ要ス

(八) 鳩舎内ノ砂ハ常ニ乾燥セルモノト交換スルヲ要ス

第四節 飼料

一般ニ熱帶ニ於テハ暑熱ノ為鳩ノ消化力食慾減退シ日糧ノ量減シ於ケルモノヨリ減少スルノ止ヲ得サルニ至ル又強テ多給ニ時ハ

味濃酸敗症或ハミエトシ病等ニ罹リ易レ故ニ日種ヲミテ凡朝
 夕二回分與トレ育雛中ノ親鳩ハミエトシ乃至四ツ朝迄夕ハ三
 四分與トレ常ニ飼料中ニ消化劑ヲ混與シ金内ニホ炭ヲ達ヲ備ヘ
 鳩ノ啄食ニ任カス等ノ手段ニ依テ略ハ温帯全種ノ運來ト俾力ヲ
 任守レ得代用飼料ハ補助飼料トシテコフヲ及「ハイヤ」ノ
 結晶ヲ實験シタルトアルモ其ニ適當ナル飼料トシテ採用レ難シ
 則チ自然自足ノ目的ヲ以テ大正十年七月末ヨリ數回ニ亘リ豌豆
 麻ノ實、粟等ノ播種ヲ試ミタルモ風土其ノ育自ニ適セサルモ力
 大抵半迄ニ於テ枯死シ粟ハ特ニ數十回モ試ミタルモ一ツモ育自セ
 六五蜀黍ノミハ相當ニ生育繁茂シタリ
 然レ是等ノ代用飼料トシテコフヲ「ハイヤ」等ノ給與ヲ數回試ミタル
 モ鳩ハ二日間ノ絶食後ニ於テモ食思ナレ
 要之内地ヨリ飼料ノ補給ヲ受ケサレハ育雛ノ飼育困難ナルモト認めム

第五節 巢箱馴致

然レテ鳩金内ニ収容シタル時配合ヲ區カレ夫々巢箱内ニ閉置馴
 致シ配合親和ヲ得ルニ要スル日數ハ三日間ヨリ長カラサルヲ可トス然
 ナレハ閉置三日以上ニ及フ時ハ暑熱ノ為「ミエトシ」病ニ冒サレ或ハ
 蚊害ノ為眼病ニ罹ルストアリ閉置期間ハ熱地ニ在リテハ一層

巣箱内ヲ清潔ニ掃除整頓シ蚊蠅等ヲ侵入セシムル様特ニ注意スル
若レ用置ミ日間ノ後尚馴致親和ヲ得ル時ハ他鳩ヲ交配セシム可シ
閉置後巣箱開放ニ際シハ同時ニ全部ヲ開放セサル様特ニ注意
スルヲ要ス

第六節 産卵

一般ニ温帯地方ニ在リテハ産卵ハ連續ニ四ニ日間ニ於テスルヲ例トスモ
熱帯地方ニ在リテハ然ラス一日置ニスルヲ通例トス之レハ食餌ノ關係
ニ非スルヲ暑熱裡ニ於ケル舍外強制飛翔、放鳩訓練等ハ氣
候適宜ナル内地ニ於ケルモノト對比シ遙カニ疲勞甚シキ因ルモ
ナラン

第七節 孵化

孵化ノ諸狀態ハ温帯地方ニ於ケルト毫モ異ル所ナキモ産卵孵化
迄ノ所要日数内地ニ於ケルヨリ稍短シ

(註) 南洋防備隊鳩舎ニ於テ約一ノ年ノ統計ニ依リハ

産卵間隔日数

二十八日間

産卵ヨリ孵化迄ノ日数

十七日間

ニシテ内地鳩舎ノ一般統計ニ比レ前者ハ約十百短カク後者ハ一日
或二日短カレ故ニ南洋ニ於テハ舊殖狀態ハ内地ニ比レ

頗ル旺盛ナルト認

第八節 育雛

孵化後親鳩ハ直ニ乳糜ヲ出レ雛ニ口授セントスルモ數時間親ト
雛トノ分離レ置クヘシ是レ熱地ニ在リテハ特ニ留意スヘキ要件
ナリ若シ親鳩ノナカクハ依ニ放置スル時ハ孵化後三日ニテ多ク
コレニテ病ニ罹リ更ニ放置スル旬日ヲ出テ死セラルガ故トス
孵化ニ十日間ハ毎日口中ヲ交換シツルニテ病菌ノ有無ヲ調
ヘ若シ各見セ鏡匙若クハピンセットヲ以テ徐カニ之ヲ除去シニガ
セントノ硝酸銀水ヲ羽毛ヲ以テ塗布スヘシ雛ハ熱地ニ在リテハ
一般ニ發育遲緩ニシテ成長ニ達ス迄ニ内地ニ於ケルヨリ毛約々月
多クヲ要ス而カモ羽色悪シ多光澤ナク兩ニ抵抗弱クテ飛
翔力一般ニ稍々低カナリ左記發育遲緩ニ對シテハ消化劑並
常新ノ適用ハ有効ナルヘト信ス

第九節 飲水

飲水ニ一日毎ニ重曹及硫酸鉄ヲ交互ニ添入シ供給スルヲ要ス重曹
ハ消化劑、硫酸鉄ハ強壯劑トシテ効果顯著ナリ其ノ分量左如シ
水五升ニ對シ 硫酸鉄 蠟豆大一何
水五升ニ對シ 重曹 一食匙

第十節 水浴

隔日ニ行フヲ通度トス

第十一節 「ミネーゲ」病

熱帯地方ニ在リテハ概ネ氣温高ク且濕度大ナルヲ常トスルヲ以テ傳染病
特ニ「ミネーゲ」病多ク發シ易ク僅々數日ノ間ニ鳩舎内全鳩ニ傳染ス
ルトアリ管理上深甚ナル警戒願慮ヲ要ス雖並久シク抱卵中ノ
雌鳩等ハ最罹病シ易シ而シテ之カ唯一豫防法ハ周到ニ鳩舎
清潔法（消毒）ト嚴密ニ鳩糞ヲ勵行スニアリ又最良ノ療
法ハ病鳩ノ屠殺ナルモ鳩數不足等ノ場合ニハ姑息ナカラ隔離
シテ次ノ如ク処置スヘシ一日朝夕二回口内粘膜ニ寄生セル病の形
成物ノ除去シニ $\frac{1}{2}$ %ノ硝酸銀水ヲ塗布シ或ハ稀釋ノ次度下級ヲ
内服セシムヘシ

昨年十二月横須賀航空隊ニ收容飼養セル佛國種軍鳩及本邦種
獨逸種土鳩合計十五羽收容後僅々月余ニシテ全部本病ノ自ス
又トナリタリ然ルニ其ノ後前託治療法ヲ加フルニ及ヒテハ着年後
五月ニシテ十羽八日ニシテ十三羽十二日ニシテ十五羽全鳩全治スルニ至
レリ

右治療ハ「ミネーゲ」病ノ「ゲ」病ニ特效アルヲ確信ス

第十三節 飛翔訓練

飛翔訓練ハ初期ニ於テ毎日朝夕冷涼ノ時ヲ撰ミテ施行シ直
 間飛翔訓練ヲ廢ス可トス蓋シ鳩ハ本然的ニ暑熱酷烈ナル
 昼間ニ於ケル飛翔ヲ嫌忌シ飛翔ヲ強制スルニ出テ舍後直ニ附近
 地物ニ棲止降下シ疲倦ノ状ヲ呈スレハナリ然レ共朝夕ノ飛翔漸
 次熟達スルニ至ラハ極々時間昼間訓練ヲ賦課シ次第ニ訓練
 時間ヲ延長シテ溫帶地方ニ於ケルト云稱一日三四ノ訓練ヲ勵行ス
 ルヲ要ス但シ全期間ヲ通シ鳩体特ニ諸臟器ノ狀態ヲ完整ニ
 暑熱時飛翔ニ馴化順應スル如ク飼育管理ニ最適良ノ手段
 ヲ講スルヲ要ス即チ水浴ノ勵行飼料ノ選擇及其ノ配合ノ好
 適迄消化強壯劑緩下劑ノ適用等ハ最緊要ナル事項ナリ

第十三節 放鳩訓練

飛翔距離ノ長短ニ係ラスハ放鳩前ニ飲水セシムヘシ其他溫帶
 地方ニ於テト異ナルトナリ

第十四節 飼養能力

南洋群島ノ如キ海洋地帯ニ在リハ視界一望海波ニテ地形ノ記憶ニ
 資スルノ極メ稀ナリ故ニ飼養能力ハ大陸ニ比シ低劣ナリ
 又長距離飛翔ニ際シ休息ヲ羽翼ノ疲勞ヲ回復スルハキモ無キ

以下遠距離通信ニ不通ナルモノ如シ

(註) 泰西ノ文献ニ於テ本邦長閑飼鳩家甚長ク言ニ依ル鳩モ時ニ水ニ
沈ミ或程度迄ハ游泳可能ナルモノ如シ

但シ斯ノ如クシテ一旦水上ニ浮泛休息シ更ニ遠距離飛翔ヲ
續行スルカ如キアトヲ所期スル大ニ志想ニテ鳩ハ他ノ水禽ノ如ク
羽脂ノ分渺豊富ナリサルヲ以テ到底不ク能ク事ニ属ス
(附) 南洋防備隊鳩舎放鳩成績

放鳩所	放鳩距離	最速通過時	最遅通過時	平均速度 (秒時)	雌雄別	備考
桃島	東方八村	三分	六分	一二〇	M	
〃	〃	五分	八分	七八	M	
〃	〃	一分〇	一分五	四〇	W	
〃	〃	九	一分五	四二	W	
〃	〃	三分	二分〇	二七	M	
〃	〃	五〇分	三一分	一六	M	
〃	〃	五〇	三一分	一八	W	
〃	〃	一分〇	一分三〇	二七	W	
〃	〃	二五	一分〇	四三	M	
〃	〃	二〇	一分〇	五三	M	
水曜島	西方三〇	二〇	一分〇	五三	M	

(一) トロツプ (二) 林 (三) ヲリ 三四放鳩セシニ 三四日後ニ漸ク帰還セリ
 (二) トロツプ、セーントロク間 (三) 林 (四) ヲリ 放鳩セシニ 全鳩六羽失踪セリ
 島嶼ニ精々精後ノ成績次ノ如シ
 (一) 東南方協 (二) 五羽 (三) 流船アリ 雄七羽 雌四羽 放鳩 雄六羽ハ約

水曜島	西方三	三〇	一〇五	四四	万
北島	北方四〇	二〇	三〇〇	四一	万
シ	シ	三五〇	一三〇	五〇	万
シ	シ	三五五	一三〇	四七	万
シ	シ	二五五	一一〇	五七	万
シ	シ	三七七	一一〇	四二	万
月曜島	二〇	一六	五五	四八	万
シ	シ	一〇	一〇	七〇	万
シ	シ	二〇	四〇	四五	万
シ	シ	一五五	三五	五七	万
冬島	九	五	二〇	二二	万
シ	シ	六	二五	五五	万
シ	シ	四	二五	七八	万
シ	シ	一二	三〇	三一	万

総平均運力
 四八二科時

二時間後飯舎雄一羽約四時間後飯舎雌一羽翌日飯舎三羽失
踪ヤリ

二東南方海上(六)軒鳩舎所在地ノ山頂シ迄カニ認ム得(三)汽船ヨリ
一二羽ヲ四羽宛放鳩中一二羽ハ時間半以内ニテ飯舎一羽失踪
三東方海上(七)軒ヨリ汽船ニ雄一羽放鳩約二時間後集團ニテ
飯舎ス

第二章 極寒地方ノ鳩通信

第一節 鳩舎防寒装置

若宮艦上鳩舎ニテ防寒装置トシ鳩舎各側面ニ葉ヲ装置シ
其ノ上面ニ透ッ張り冷氣賦因内部ニ侵入スヲ防キ金内ニ多
量ノ切葉ヲ散布シ置キシカ此ノ設備ハ置ニ依リ零下三十度迄
ハ充分耐工得ルヲ實験セリ

勿論左記以上ニ鳩舎ノ防寒装置ヲ行ヒ得ヘト雖鳩ノ寒地ニ於
テ實用通信ニ使用セシカガハ相當ノ寒氣ニ耐エズル要アルヲ以テ此ノ
程度ノ防寒装置ニ止ムル可トス
若シ二重壁鳩舎ヲ使用スレハ著シク鳩舎内温度ノ降下ヲ防キ
得ルモノナリ

第二節 飼料

寒地於其場ニ充分ノ休養ヲ保タル爲飼料ハ脂肪分多キ濃厚ナル飼料（年寄、菜種等）ヲ比較的多多ク與フル必要アリ
飼料ノ保存ハ暖地ニ比シ容易ナリ

第三節 飲水

極寒地ニ於テハ飲水ハ常ニ氷結スヲ以テ飼育者ハ日飲水ニ宜（天竺飼料ノ目量ト合ナリ）ヲ氷結ノ程度ニ應レテ數回ニ分リテ給與スヘシ又降雪ノ爲所還方向ヲ誤リ飯食困難ナル場合ハ途中ニ於テ湯ヲ貯シテ俾カヲ恢復シ能翔ヲ續タル必要ニ依リ常ニ之ヲ食スルノ習慣ヲ失フコト可トス
寒地ニ於テハ及手體者日ニ此ニ實驗ヲ行ヒタルニ行動期間短キ爲給與レテ留ラズ食スル程度迄之ニ慣レシムルニ能ハカリキ

第四節 飼育一般

寒地ニ於テハ親鸚、飼育ハ内地ト異ナリ唯前記ノ如ク脂肪分多キモノヲ與フル必要ナルニ脂肪分多ク給與時ハ肥胖症トナル虞アリ
ルヲ以テ充分ノ注意ヲ要ス
一般ニ極寒ノ際ハ食慾ハ進ミカレシ
日中ハ或可ク外氣ヲ金内ニ入レテ新次寒氣ニ當リシムルニ要ス

夜間ニ於テハ出幸得ル限リ外氣賊風ノ侵入ヲ防止ス事肝要ナリ
若シ寒風賊風ニ對シテ注意ヲ怠リ感冒ニ罹ラシムル時ハ其全快容易ス

第五節 育雛

極寒地方ニ於ケル育雛ハ特ニ深甚ナル注意ヲ拂ハサルヘカラス即チ第四章
事項ヨリ守リ溫帶地ニ於ケル育雛ハ經驗ニ準テ絶エス其ノ狀況ニ
注意スルニトハ要ナリ

軍艦春日ニ於テハ寒氣ノ爲ニ雛ノ發育悪ク生後十日乃至十五日ニテ
死セシモノ多数生シトアリ

第六節 疾病率

寒地ニ於ケル疾病率ハ暖地ニ比シ傳染性疾病患甚キ爲ニ一般ニ衛
生状態良好ナリ軍艦若宮ニ於ケル實驗ニ徴スニ約三十羽ノ鳩中
死セシハ横首解ノ出巻前ヨリ罹病中ノ親鳩一羽、雛一羽ノ凍死セシ
モノニテテ外凍傷其ノ他ノ病氣ニ冒セシモノナシ

大湊防備隊鳩舎ノ報告中ニモ極寒中ノ健康良好ナル事ヲ記シ
アリ今内ニ於ケル清潔法ハ鳩舎畧然其ノ他スハテ凍結スル爲ニ暖地
程ノ顧慮ヲ要セス

第七節 耐寒限度

仔鳩親鳩ノ飼育ハ熱帶地ニテモ容易ナシモ寒帶地方ニテモガナシ

困難ニテラス

軍艦老鷹ノ北海巡航ノ際ハ約三十日間ニ渡リテ零度以下ノ降ル事アリ
概テ零下五度以下ナリ方前記ノ如キ良好ナル健康状態ニ保持スル
得タリ尚零下十度乃至十五度（日中）通シテ（気温）ニ於テ約一週間、
幽閉ヲ試ミタルモ元氣旺盛ナルヲ見受ケタリ 気温零下三度迄ハ風
通信可能ナルヲ知シ

軍艦老鷹日ハ零下六十度以下約二十四度地ニ三日間遊泊セシ事ナルモ最初ノ
日ハ氣血激変ノ爲メ元氣ナク食欲亦サク之ヲ強制出金セシメ
タルニ海ニ結氷ニ驚愕セシ爲メ平常ヨリ高ク遠ク約二十人ノ耳
飛翔セリ第二日第三日ハ平常ト同様に實用通信ヲ行フヲ得タリ

第八節 飛翔訓練

一般ニ寒地ニ於テ飼育セツツアル鳩ハ降雪中ト雖飛翔訓練ノ施行
容易ナリ如キニ降雪甚キ時ハ往々失跡スルニトアリ

軍艦老鷹艦上鳩舎ノ例ニ依ルニ寒地ニ於ケル降雪中ノ第四回飛翔
訓練ハ頗ル不良ナル狀況ヲ呈セカ同ク重タルニ從ヒテ想緯シ第四回目
ハ成功ノ域ニ達シ再後ハ積雪中ニ飛翔訓練ノ實施容易ナル至リ
此上ノ理由ニ依リテ解雪時又訓練上合一ノ困難ニ遭遇スヘキモノト
思考セラルヘカラス

要之極寒地ニ於テ飛翔訓練ノ實施ヲ困難ナラセラルハ實ニ非
人ノ降雪ナルモ容易ニ慣レタル事ニ得ヘシ

第九節 放鳩訓練

前章ニ述ビタル降雪中ノ飛翔訓練ハ困難ナラセリ以テ降雪中ノ短
距離通信ハ比較的容易ナリ唯通常ノ場合ニ比シ経過時大ニテ
吹雪又ハ風烈ニキ時ハ失踪鳩ノ少スコトアリ

遠距離通信場合ニ於テハ特ニ深甚ナル注意ヲ必要トス何トナレバ
寒地ニ於テハ雪ノ爲時トナシ其ノ環境風色ノ一變ナル事アルニテ
降雪強風等ノ多メ方向判定及放鳩ハ容易ナラス而テ一度放鳩ヲ
誤ラシテ途中ニ於テ休息ヲ獲餌飲水ノ方法無キ爲凍死ニ至ル
故ニ寒地ニ於テハ距離以上ノ基本訓練ハ天候ノ良好ナル時機ヲ選ミ
テ實施セラルハ尤モ寒地ニ於テハ天候ノ急變ヲ珍シカラサルヲ以テ
放鳩者ハ充分天候觀測ニ注意スルハ要アリ

第十節 放鳩能力

以上事項ヲ明カサシタル極寒地方ニ於ケル鳩通信ハ極端ニ比シ
猶困難ナリ

而テ其ノ放鳩能力ハ降雪其ノ他ノ事情ニ依リ變化スヘク之レヲ
数字的ニ示スハ困難ナリ

向極寒時飛来セシ放鳩訓練、例サテ休ミ十軒以上ニ於ケル放鳩ノ
齊駿ナキヲ以テ今後ニ於ケル研究ノ結果ヨリ見ルニ非ハ断言スル
能ハス

而シテ又舊地ニ設備セラルル固定鳩舎鳩ト實地ニ慣レテ鳩ト
其能力ニ大差アルコトヲ忘ルヘカラス

極寒地ノ齊駿ハ非サレテ通信ハ普通ノ宜間鳩ハ約三分ノ一飯
金(連力二十軒時)ニシテ夜間鳩ハ殆ト全数飯金(連力十軒時)
ト良好ナル成績ヲ得タリ

(附) 所著舊日 艦上鳩極寒地方放鳩成績

軍艦春日鳩舎					
碇泊港	直距離	最速時間	最大距離	放鳩数	備考
大湊	三軒	一〇分	二四分	9/16	12時過ぎアリテ寒レ
〃	二	五	一三	9/16	無シテ時々降雪アリ
〃	六	一〇	一二	9/4	寒気厳シ
〃	二	五	一三	9/16	時々降雪アリ

軍艦若宮鳩舎			
磯上	磯上	磯上	磯上
五	二	二	二
一	二	二	二
四	四	四	四
(日時)	二	/	最
1/2	1/4	1/2	時
ク	ク	降	備
		雪中	考
		ニ	
		非	
		ス	